

小学生版

あたらしい児童書 NO. 317 2026. 2. 1

遠軽町図書館
遠軽町大通南4丁目
TEL42-3632
FAX49-2102

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。
小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『まこちゃんとコトバロボ』 村上 しいこ／作

・ドリルも宿題も大嫌いなまこちゃんは、ある日、国語のことならなんでも教えてくれる“コトバロボ”と出会う。コトバロボに宿題を任せきりにするまこちゃんですが…。学びの楽しさを伝える、心あたたまる物語。
(小初)



『ふしぎながっちゃん きょうりゅうにあいたい』 斉藤 洋／作

・お休みの日にカプセルトイにであったあなたはラッキーすぎる! やりたいと思っていたことができちゃうかもしれません…。「いちごパフェ」など全6話を収録。迷路や点つなぎなどのクイズページあり。(小初)



『まほうのはみがきこ』 まつなが もえ／絵

・おばあちゃんからもらった「正直堂のねりはみがき」で朱里が歯をみがくと、口から本音が飛びだします。今まで「いい子」でいたはずなのに…。自分に正直になることの意味や、相手を思うことの大切さに気がつくお話。(小初)



『ちいさなクリスマスツリー』 アーシュラ・モリー・ウィリアムズ／作

・クリスマスイブ。ちいさなもみの木は、貧しい家族をよろこばせたい一心で、きらきら光る飾りをさがしに夜の森へとかけだします…。クリスマスの心を伝える絵物語。(小初、小中)



『マイ・ディア・フレンド』 小手鞠 るい／作

・引っ越した直後に飼い猫が死んでしまい、寂しさを抱えていた少年。ある日、図書館で、「マイ・ディア・フレンド」という本に呼ばれた気がして…。少年が、読書を通して友情を育みながら、悲しみを乗り越えていく物語。(小中)



『ミシュカ』

エドワルト・ファン・デ・フェンデル、アヌッシュ・エルマン／作

・難民になった家族がようやく新しい国で見つけた幸せ…。9歳の少女ロヤが、ウサギのミシュカと過ごす楽しい日々を描きながら、長くて大変だった旅や、新しい国で受けるさまざまな差別といったつらさも伝える。(小中)



『カタミミの森』 小森 香折／作

・子ギツネのロビンは、森の仲間たちと一緒に、のんびり暮らしていた。森には“カタミミ”と呼ばれる大きなオオカミが住んでいて、みんなに恐れられていた。ある日、都からイクサグマがやってきて…。(小中)



『友だちは名探偵』 加藤 元／作

・小学6年の女子、高木とわと仲川冨は、クラスになじめず浮いているが、ふたりでいれば毎日楽しい。ある日、町内にできた奇妙な猫カフェに行ったふたり。その日から、彼女たちのまわりで不思議な事件が起こり始め…。(小上)



『怪盗うみねこの事件簿』 阿津川 辰海／作

・海辺の町・うみねこ町で、奇妙な連続盗難事件が起こる。使い古した太鼓のぼち、出しっぱなしのこいのぼり、壊れたヨーヨー…。ターゲットは価値のないもの？ ケン、ヒサト、カオリの6年生トリオが、怪盗うみねこの謎に迫る！(小上)



『みんなの居場所』 白矢 三恵／作

・仕事で忙しい父と2人で暮らす玲央。父と外国人の孤独に悩む継母の3人で暮らす陸。母と妹と介護が必要な祖母の4人で暮らすまひる。クラスメイトの3人は、それぞれ違うきっかけで「ひだまり子ども食堂」に行くことになり…。(小上)



『読書会を魔女といっしょにやってみたら』 濱野 京子／作

・友だちと「読書会」を始めた小学6年生の稀桜。書店も図書館もない町に「貸し出しもできる一箱書店」を作りたいと、自称「魔女」の愛沙さんに相談します。すると、大人たちの前でプレゼンをすることになって…!?(小上)



『小さい魔女と大きい魔女 ローズと汚れた海』 岡田 晴恵／作

・一年に一度の魔女のお祭り、ワルプルギスの夜。集まった魔女たちに突きつけられたのは、自然が壊れ、生き物が死に絶える恐ろしい未来だった。小さな魔女のローズは見習い修業で、汚れた海をきれいにしようと奮闘するが…。(小上、中)



『チング!』 八束 澄子／作

・夏休み、予期せぬ出来事をきっかけに、チチ(父)と韓国へ旅することになった小学5年生の幹太。世界遺産の山があるチェジュ島をめざし、韓国を縦断して…。チチ、そして異国のともだちとのかけがえのない時間を描いた物語。(小上、中)



『真昼にも星が光ると知ったのは』 梨屋 アリエ／作

・みんなから変わっていると言われる中2の少女・夏鈴は、盲ろうの青年に出会い…。親友ができたことをきっかけに、様々な人たちと知り合い、「友だちとは?」「障害とは?」と考えを深めていく物語。(小上、中)



『チーム豊臣!』 楠木 誠一郎／作

・「秀吉の補佐役」「豊臣政権のナンバーツー」といわれる豊臣秀長。「チーム豊臣」の「じゃないほう」の彼は、内心ではグチをこぼし続けていた? かの有名な弟が、わが運命をとにかくグチりまくる!(小上、中)

